

歯科再生医療研究会 Web講演会

リグロス®が切り拓く歯科再生医療の可能性を探る

リグロス®発売より3年が経ち、今回は一歩踏み込んだ、以下の要点について各先生方にお話し頂きます。

基本的FOP手術のポイント

専門の先生方から見た効果と限界

リグロス®を用いた今後の可能性

リグロス®の臨床使用上の注意点

日時 **2021年1月31日(日) 10:00~**

開催方法 「ZOOM」を利用致します。

参加費 **10,000円** (消費税を含む)

申込方法 <https://periofgf.jp/osaka>

研究会参加のお申込方法の詳細につきましては、
にアクセスしてお手続きください。



申込締切：2021年1月24日(日)



村上 伸也 先生



二宮 雅美 先生



西原 茂昭 先生



牧草 一人 先生



北村 正博 先生



中家 麻里 先生



浦野 智 先生

10:00~10:05

開会のご挨拶

大阪大学大学院歯学研究科

歯周病分子病態学

教授 村上 伸也 先生

座長		浦野歯科診療所 院長 浦野 智 先生	
第一幕	10:05~ 10:45	演題1	「歯周組織再生剤リグロス®に対する期待と課題」 講師 大阪大学大学院歯学研究科 歯周病分子病態学 教授 村上 伸也 先生
	10:45~ 11:25	演題2	「リグロス®の効果を高める手技と長期予後—骨補填材との併用効果—」 講師 徳島大学大学院歯歯薬学研究部 歯周歯内治療学分野 助教 二宮 雅美 先生
	11:25~ 12:05	演題3	「リグロス®の歯槽骨再生能に関わる臨床的效果とその可能性を探る」 講師 西原歯科医院 院長 西原 茂昭 先生

12:05~12:20

質疑応答

12:20~13:10

昼休憩及び製品紹介 (リグロス動画)

座長		大阪大学大学院歯学研究科 歯周病分子病態学 准教授 北村 正博 先生	
第二幕	13:10~ 13:50	演題4	「リグロス®を用いた歯周組織再生療法を成功に導く臨床的キーポイント」 講師 牧草歯科医院 院長 牧草 一人 先生
	13:50~ 14:30	演題5	「リグロス®の可能性を求めて」 講師 なかや歯科 院長 中家 麻里 先生
	14:30~ 15:10	演題6	「リグロス®臨床例から見えてきたこと」 講師 浦野歯科診療所 院長 浦野 智 先生

15:10~15:25

質疑応答

15:25~15:30

閉会のご挨拶

大阪大学大学院歯学研究科

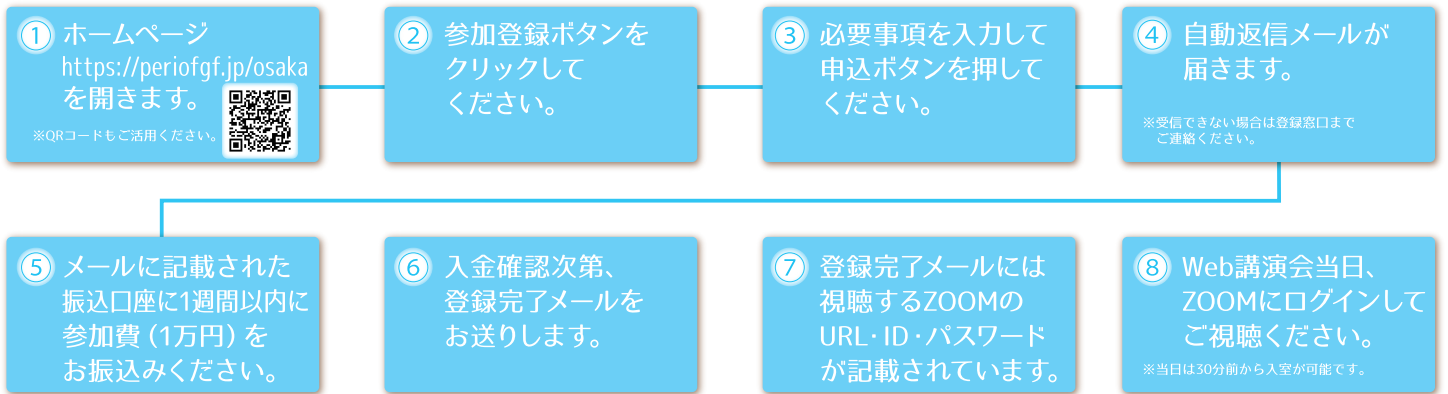
歯周病分子病態学

教授 村上 伸也 先生

弊社では、新型コロナウイルス感染症が終息に至っていない状況を踏まえ、弊社関連セミナーに関しましては、皆様の健康・安全を最優先に考え、Webによるセミナーの充実を図って参ります。

詳細につきましては、弊社ホームページ等にて順次ご案内して参りますので、何卒ご理解の程、宜しくお申し上げます。

視聴までの流れ



ZOOMのご利用にあたって ホームページに視聴方法の概要を掲載していますのでご参照ください。
※ZOOMアプリのインストール方法や
詳細操作方法につきましてはZOOMの
オフィシャルページをご覧ください。

リグロスのご購入・ご使用を希望される先生方へ 「リグロスe-learning」の受講はこちら



<http://regroth.jp>



【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
2. 口腔内に悪性腫瘍のある患者又はその既往歴のある患者
[本剤が細胞増殖促進作用を有するため]

【効能・効果】 歯周炎による歯槽骨の欠損

〈効能・効果に関連する使用上の注意〉

1. 本剤は、歯周ポケットの深さが4mm以上、骨欠損の深さが3mm以上の垂直性骨欠損がある場合に使用すること。
2. 本剤は、インプラント治療に関する有効性及び安全性は確立していない。

【用法・用量】 歯肉剥離掻爬手術時に歯槽骨欠損部を満たす量を塗布する。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

本剤の使用にあたっては【臨床成績】の項を参照し適切な量を用いること。

【承認条件】 医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。

【使用上の注意】<抜粋>

1. 重要な基本的注意

- (1) 本剤は歯周外科手術の経験のある歯科医師又は医師が使用すること。
- (2) 術後に歯肉弁の著しい陥凹を生じると予想される骨欠損部位に対しては、他の適切な治療法を考慮すること。

2. 副作用

本剤が投与された安全性評価対象症例429例中3例(0.7%)に副作用が認められた。その内訳は、適用部位における歯肉白色化、歯肉紅斑、歯肉腫脹および頭痛が各1例(0.2%)であった。臨床検査値異常は429例中51例(11.9%)に認められ、その主なものは尿中アルブミン陽性27例(6.3%)、尿中β₂ミクログロブリン上昇17例(4.0%)、尿中NAG上昇16例(3.7%)、CRP上昇6例(1.4%)等であった。(承認時)

分類	頻度	1%以上	1%未満
適用部位			歯肉白色化、歯肉紅斑、歯肉腫脹
精神神経系			頭痛
臨床検査	尿中アルブミン陽性、尿中β ₂ ミクログロブリン上昇、尿中NAG上昇、CRP上昇	AST(GOT)上昇、ビリルビン上昇、CK(CPK)上昇、ALT(GPT)上昇、LDH上昇、尿糖陽性、リンパ球増多、好中球減少、単球増多、白血球減少、総蛋白上昇	

●その他の使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

2017年12月改訂(第4版)

製造販売元
〔資料請求先〕



科研製薬株式会社
東京都文京区本駒込2丁目28-8

医薬品情報サービス室